MINISTRY OF EDUCATION
TE TĀHUHU O TE MĀTAURANGA

Te ako ngātahi
みんなで学ぼう

Ko koe, tō tamaiti, me tō whare akoranga kōhungahunga
親子のための幼児教育施設

お子さんの学習は、生まれたその日から始まります。子どもたちは家族や親族だけでなく、地域社会、幼児教育施設からも多くを学びます。本冊子は、お子さんの興味、関心を伸ばしながら親子で学ぶためのアイデアを提案しています。

お子さんがご家庭や幼児教育施設で学ぶ能力は、幸せかつ有意義に毎日を過ごしながら、他者とうまく付き合い、創造力を発揮して、幼少期から学校時代の学習を通じて才能を開花させていくために役立ちます。

ご両親は、お子さんにとって人生最初の先生であり、さまざまな方法でお子さんの学習を手助けすることができます。その中でも、親子の会話は極めて重要です。親子の会話は、生涯を通じた学習の基盤づくりになります。ご家庭では、親であるあなたが使い慣れている言葉でお子さんに話しかけるとよいでしょう。

幼児は日々の遊びや生活行為の中から多くを学びとっていきます。お子さんと一緒に遊んだり、家事を手伝わせたりすることが、学習につながります。

New Zealand Government

アオテアロア・ニュージーランドの幼児教育

アオテアロア・ニュージーランドの幼児教育施設では、遊びのほかにも、子どもたちが料理やガーデニングといった生活行為を実践できる機会がたくさんあります。

幼児教育施設の先生は、絵具やねんど、プレイ・ドー、組み立てブロック、水、砂などを使った遊びを通じて、子どもたちの学びを促します。時には汚れたりすることもあるでしょう！幼児教育施設の先生たちは、子どもたちと遊び、会話しながら、知識や技能の育成に努めます。

また、各家庭の言語や文化背景も考慮し、子どもたちが馴染みやすいように保護者のご協力をお願いしています。

お子さまに適した環境と教育内容を提供し、保護者の期待に応えるため、先生たちは保護者との相互信頼関係の構築にも努めます。

国内の幼児教育施設では、幼児教育カリキュラム「*Te Whāriki*」に基づいた指導が行われています。 *Te Whāriki* は、Te Tiriti o Waitangi（ワイタンギ条約）に基づく二文化併存のための教育要領です。

お子さまに適した施設の選択

アオテアロア・ニュージーランドには各種の幼児教育施設があり、いずれも政府の基準を守ることが義務付けられています。一部の幼児教育施設では、入園待ちになることもあります。

3才以上のお子さんは、週20時間まで無償で幼児教育施設に通園できます。ご家庭の事情によっては、施設利用料がWork and Incomeの支援給付金の対象になる場合があります。

幼児教育施設は、お子さんの発育に関して保護者へ随時報告します。お子さんの図画工作、ゲーム、お遊戯などの成果を、動画や写真、学習状況の説明を通じて報告することも、その一環です。

幼稚園

幼稚園の先生は、全員が国家登録済みの有資格者です。満2才から学齢に達するまでの幼児が対象です。一般的な開園時間は小学校と同じです。

コハンガ・レオ

コハンガ・レオでは、大人も子どもも学習や会話にマオリ語を使い、保護者やその家族が、園の運営に積極的に関与しています。

保育園

スタッフの半数以上が、国家登録済みの有資格者です。新生児から学齢に達するまでの乳幼児が対象です。保育時間は、全日と短時間を選べます。

アオテアロア・
ニュージーランドの
幼児教育施設

プレイセンター

新生児から学齢に達するまでの乳幼児が対象です。保護者やその家族が中心になって運営しています。また、子育てや幼児教育に関する各種の保護者向けクラスも開講しています。

在宅保育

お子さん又は保育士の自宅でケアします。保育士のサポートは、幼児教育の資格を持った教諭が行います。

プレイグループ

通常、プレイグループは地域活動支援団体によって発足、運営されます。活動時間は、1回あたり最長3時間です。通常、お子さんが参加している間は、保護者もその場にいる必要があります。

気持ちについて学ぶ

子どもたちは、幸せ、興奮、緊張、怒り、怖れといった強い感情を抱くことがあるかもしれません。幼児教育施設の先生はお子さんと一緒にそのことについて話し合い、自分の気持ちを理解できるように手助けすると共に、前向きな方法で感情を表現することの大切さを教えます。これは、健やかに毎日を過ごし、日常生活を満ち足りたものにしていくうえで欠かせない能力です。

ご家庭でも次のようなことができます。

» ご家庭で使用する言語や英語で、お子さんの気持ちを表現する言葉を一緒に探してみましょう（「今、とってもワクワク/興奮してるね」など）。

» お子さんが感情的になっている時は、静かな音楽を聴く、歌う、シャボン玉で遊ぶ、土いじりをする、読み聞かせをするなどして、落ち着かせましょう。

» 怒り、緊張、不安といった感情をコントロールする方法（深呼吸、ジャンプ/走るといった運動など）をお子さんと一緒に見つけましょう。

他者との付き合い方を学ぶ

子どもたちには、生まれた時から愛され、守られているという安心感が必要です。そのためには「周囲の大人が自分の興味、関心、ニーズに対応してくれる」という認識を育てていくことが大切です。

お子さんは、幼児教育施設で親切な大人を相手に信頼と触れ合いについて学びます。そこから、お友だちとなかよく遊んだり、分け合ったり、相手の気持ちやニーズを尊重したりする方法を身につけていきます。

ご家庭でも次のようなことができます。

» お友だちと代わりばんこで何かをする、分け合うといった行動を通じて、友情を育むことを教えましょう。「ブランコに2分乗ったら、テオくんと交代ね」や「リンゴを6つに切って、3つをハナちゃんにあげようね」など。

» 子ども同士のけんかや問題を解決する方法を教えましょう（他の子の気持ちを説明し、どうやったら相手のためになるかを考える、など）。

» お子さんがお友だちと交代したり、分け合ったり、仲直りした時は、ほめてあげましょう。

親子で会話や読み書きを楽しむ！

言語は学習の重要なカギです。

幼児教育施設では、お話や歌、遊び、読み聞かせ、お絵かきなどを通じて、読み書きの基礎能力を育てます。

先生は子どもたちに話しかけ、いろいろな質問をしながら、子どもたちが自分の言葉で説明するように促します。また、読み聞かせや、子どもたちと一緒に童謡やマオリ語の歌を歌ったり、言葉遊びをしたりします。

ご家庭でも次のようなことができます。

» 乳幼児と言葉のやり取りをして、お子さんがどんな声をあげるか、どんな言葉を使うか、何を見ているかを認識し、お子さんの反応に答えてあげましょう。

» お子さんがモノをつかめるようになったら、布や厚紙でできた本で遊ばせましょう。お子さんがそれを口に入れても心配する必要はありません。その行為自体も学習です。本の中の絵や写真について話してみましょう。幼児は、すぐに見慣れたものを認識できるようになります。

» お子さんが興味・関心を示すものについて話してみましょう。言葉が出始めたら、できるだけ会話を続けるように心がけましょう。

» お子さんと話したり、歌を歌ったりする時は、ご家庭で使い慣れた言語を使いましょう。日常の出来事を話題にして、何をしているのかを説明させてみましょう。

» お子さんと一緒に絵本を見ながら、読み聞かせをしましょう。親子で楽しむことが大切です。乳幼児は、数分で絵本に飽きてしまうことがありますが、それでも大丈夫です。それは、本がどういうものかを学んでいる段階だからです。

» お父さん、お母さんが子どもの頃に慣れ親しんだ歌やお話を教えましょう。語り聞かせをする時は、指人形やぬいぐるみを使ってもよいでしょう。

» お子さんを図書館へ連れて行き、好きな本を選ばせましょう。児童書の貸し出しは無料です。また、子ども向けの読み聞かせイベントを無料で開催している図書館もあります。

» 鉛筆、クレヨン、絵具、チョークなどを使って、絵を描いたり、印を付けたりさせてみましょう。全く意味をなさないものでも問題はありません。

» お子さんと外出した時は、文字や言葉を探してみましょう。お子さんの名前の頭文字を探してみるのもよいでしょう。

楽しみながら算数、理科、テクノロジーを学ぶ!

子どもたちは身の回りのことから算数や理科、テクノロジーについての知識を深めていきます。子どもたちが気づいたことを話題にし、物事の仕組みについて一緒に調べてみましょう。

幼児教育施設では、さまざまな学習活動を通じて算数や理科、テクノロジーの基礎知識を伸ばします。子どもたちは動植物の観察、砂や水を使った遊び、機械の働きを考えることなどから、自分たちが住む世界に興味を持つようになります。

数を数えたり、大きさを測ったり、分類したりする以外にも、お絵かきや身体を使った遊びから算数の知識を学べます。幼児教育施設の先生が、ゲームの最中に「over/under/through/behind/above」などの言葉を使うことも、その一例です。

ご家庭でも次のようなことができます。

» お子さんが好奇心を持ち、いろいろな質問をしてくるように促しましょう。

» 親子で数を数えるゲームをしましょう。階段の上り下りをしながら、数を数えてみましょう。そのほかにも、食事の準備をする時にお皿の数を数えてみてもよいでしょう。

» ご家庭の内外で目に付いたものの手触りや外観、音、味、においについて話し合ってみましょう。

» 形や材質の異なるものを組み合わせて工作してみましょう。木製ブロックや台所にある缶、空き箱でタワーやお城をつくってみましょう。

» 日常生活の中で数や形、大きさ、パターンなどを見つけさせてみましょう。お散歩の最中に郵便受けや自動車のナンバープレートを使って、数字探しをしてみましょう。スーパーマーケットの駐車場に停まっている赤い車の数を数えてみてもよいでしょう。

» 料理や皿洗い、ガーデニングといった家事や、海岸での砂遊び、水遊びなどの最中に、子どもたちが気付いたことについて話し合ってみましょう。

お子さんがスマホ、タブレット、コンピュータなどを使用する場合は、常にその様子に注意し、使用時間を制限しましょう。健全な学習と発達のため、2才未満のお子さんがこれらのデバイスを使用することはできるだけ避け、2才以上のお子さんには1日1時間以内に制限します。使用時間は、できるだけ短くしましょう。

アート、音楽、ダンス、演劇を楽しもう！

アート、音楽、ダンス、演劇を通じて、子どもたちが気持ちやアイデアを表現することも可能です。また、これらの活動は、母国語や文化の知識を深めるうえでも役立ちます。

幼児教育施設には、子どもたちの想像力を刺激するアイデアや教材が豊富にそろっています。ごっこ遊びのコスチュームから楽器、絵具、ねんど、プレイ・ドー、木片、コラージュの材料まで、さまざまなアイテムを見つけることができます。子どもたちは先生に助けてもらいながら、ハサミ、のこぎり、かなづちなどを使って安全に工作を楽しめます。先生は、子どもたちの想像力を生かしたクリエイティブな遊びを奨励し、一緒になって楽しみます。

ご家庭でも次のようなことができます。

» お子さんと一緒に遊びや踊りに興じたり、創作ゲームを楽しんだりしてみましょう。お子さんに主導権を与えてください。

» 子どもたちが想像力を使う遊びを奨励しましょう。たとえば、家にあるものを船や宇宙船、お店に見立てて、船乗りや宇宙飛行士、お店屋さんの格好をして遊んでみましょう。船が沈んでワニに食べられてしまうこともあるかもしれませんが、お子さんのゲームに加わって、一緒に楽しみましょう。

» 絵具、チョーク、クレヨン、ねんど、プレイ・ドー、ウール、ハラケケ（亜麻の葉）といった異なる材料を組み合わせてみましょう。小枝や土、葉っぱを使って小さな森を作ってみたり、砂浜で砂に絵を描いたりしてみるのもよいでしょう。

» お子さんの作品について質問し、家の中に飾りましょう。家族で作品を鑑賞することは、お子さんの自信を育むことにつながります。

» 親子で音楽を聴き、歌い、踊りましょう。

» 缶やプラスチック容器に砂利や小石を入れて楽器を作り、歌や踊りに合わせて振ってみましょう。

2020年5月 教育省発行www.education.govt.nz Copyright © Crown 2020, item number 63571. [Japanese]